

江坂設備工業株式会社 創業ストーリー 「誠実に 正直に」

平成27年7月19日 MRTLラジオ サンデーラジオ大学 鳥山浩会長出演より

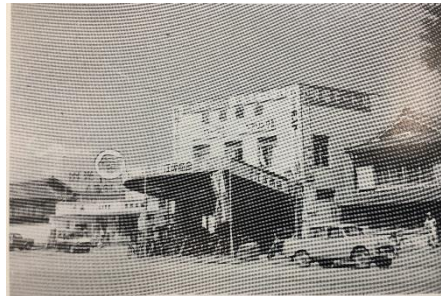
聞き手 藺田潤子



●昭和2年（1927年） 親会社 江坂商会創業



宮崎市橋通2丁目（現在）開店当日の江坂商会



昭和2年創業当時
(現アパホテル付近)

昭和29年店舗移転
(現 橋通東4丁目 コンビニ付近)

創業者 鳥山進 (昭61年永眠)

創業者 鳥山進は出身地である福井県勝山市から義兄のいる鹿児島市の(株)江坂商会に就職。電気工事から水道工事まで幅広く行う会社であり、昭和2年に江坂商会宮崎支店として進出した。創業当初から「農機具なら江坂 プロの店」と評判が高まり、電気・水道資材・伝導装置(モーター)取扱いは、時代のインフラ需要と共に多様化していった。

当時の営業販売は県内一円として、遠くは延岡・高千穂・えびの・串間まで自転車で営業を行うスタイル。他にも、精米所のモーター取替え、動力など保守に関しては、道路沿いの電線/電柱3本(3相)の箇所をたどり、持ち主に営業を仕掛けていった。結果、時代を先取りしたきめ細やかな営業が顧客増加につながった。

昭和8年、本社 鹿児島島の江坂商会の社長(江坂銀磨氏)が亡くなり、「宮崎電気商会」に屋号変更。しかし、当時のお客様から「江坂さん、江坂さん」と可愛がられていたこともあって、「江坂商会」に屋号を戻した。



平成10年 店舗移転

宮崎市柳丸町52番地

現在の江坂商会 代表者 鳥山純代

会長の鳥山浩は、終戦(昭和21年 1946年)まで1年間 福井県 勝山市に疎開。

江坂商会を経営する父 鳥山進の姿を見て、会社の手伝いをしたいという将来への希望を抱く。高校はバレーボールの強い大淀高校 機械科へ進学。部活動では、キャプテン(監督代行)を務め、その強さは県内トップだった。

高校卒業後は、東京の電機会社 機械設計部に入社。終業後は、上司の勧めで日本大学 理工学部(夜間)に通学した。バレーで鍛えた体力・精神で、仕事に臨み、昭和37年に卒業。

昭和37年の東京オリンピック・高度経済成長を機に、今後は給排水衛生・建築設備が発展すると考え、設備会社に入社。この時から既に宮崎に戻ることを視野に入れていた。

建築ブームの波に乗り、この時から多くの現場施工管理を行う。学んだことは、「現場代理人は、一担当者ではなく、社長の代理人である。その時の苦労が今の自分を創っている」ということだった。

昭和39年 宮崎に帰郷し、「江坂商会 工事部」として勤務。東京との技術・知識の差は歴然としていたため、現場での指導が実を結ぶと共に、社内の信頼を得ることができた。

昭和43年 資材卸部門、工事部門を独立採算制に移行することを決定。

●昭和44年(1969年) 江坂設備工業株式会社創業

当時としては珍しく、日雇いの現場職人を正社員として採用。外注に頼ることのない自社施工は、多くの職人を長い時間かけて育成しなければならなかったが、安定した生活の基盤を提供すると共に、就業規則等を整備した。

また、経営者自身、勉強熱心で、絶えず変化しなければならない経営理念「誠実 正直 努力」を軸に顧客、社員、協力会社、仕入れ先に対して関係を深め、社会貢献を積極的に行った。



●昭和47年(1972年) 24時間365日

水まわり修理対応を始める

夜間修理対応は、一人で行っていた。

携帯が普及した頃から、社員全員で「持ち回り当番」を実施。水回りでトラブルがあった際にはスグにかけつけ、「困った」を「良かった」へ変えることを心がけた。結果、多くのお客様の喜んだ声を聞き、笑顔を見ることで社員の士気もあがり、さらには顧客満足にも繋がっている(現在修理対応 約5,000件/年)



元祖 宮崎の水の110番!!

会長は、現在まで朝4時に起床し、朝はウォーキング、英会話を勉強。

ローターリー等で外国に行く機会もあることから、英会話を学びたいと思ったことがきっかけだった。

50周年に向けて、取り組む課題は、後継者育成、社員へ経営理念教育を行っていくこと。我が社が50年間続けられたのも先代の教え、時代にあった経営をしてきたからである。

今後も宮崎に、そしてお客様に必要とされるライフラインを支える企業として、「誠実に 正直に」、事業にあたっていきたいと考えている。